

# 2017年12月期 業績

2018年2月1日

 伊勢化学工業株式会社

## 業績のポイント(2016-2017)

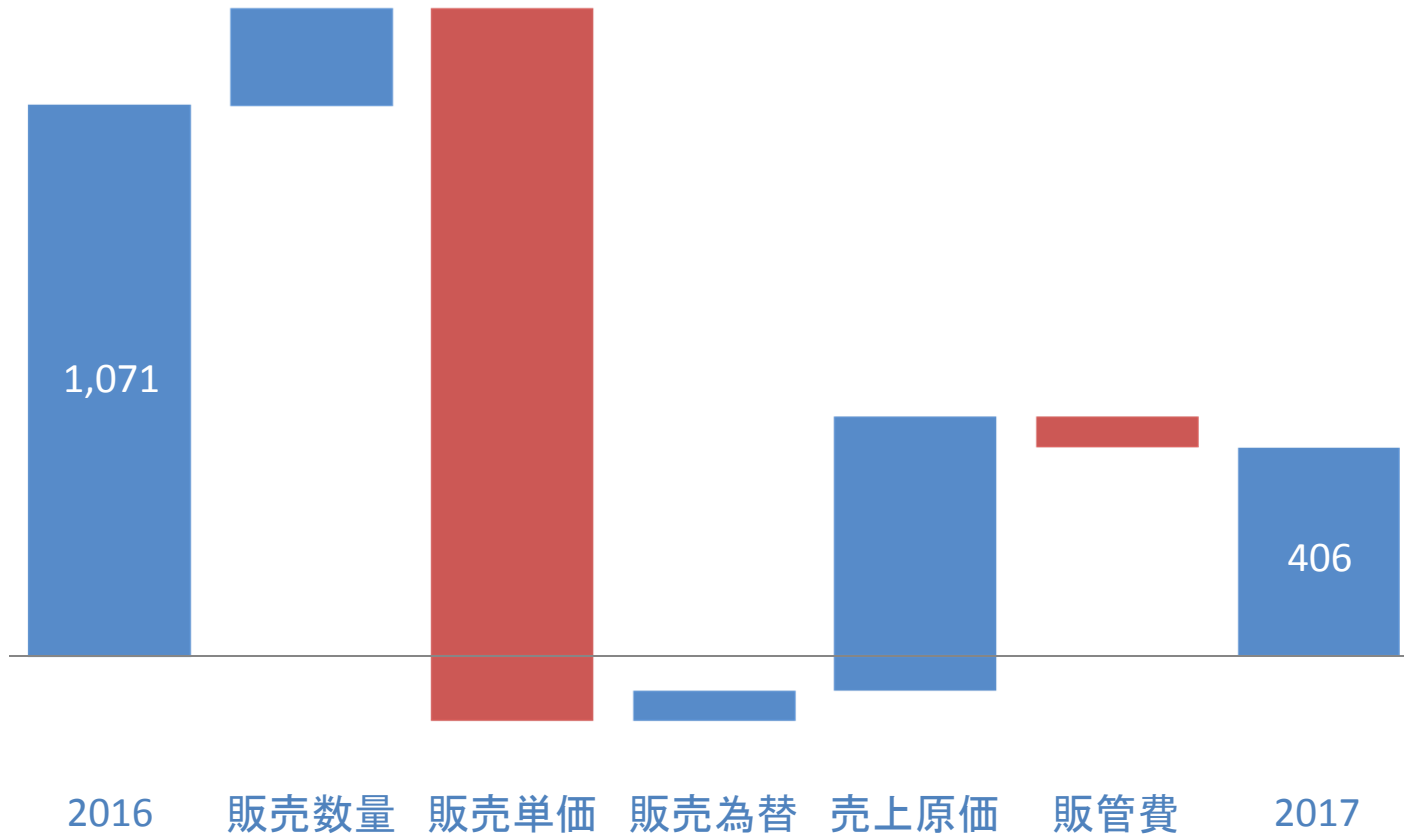
(百万円)

	2016	2017	増減	増減%
売上高	14,219	14,348	129	0.9%
営業利益	1,071	406	-664	-62.0%
当期純利益	705	109	-595	-84.4%

- ヨウ素及び天然ガス事業  
ヨウ素国際市況の下落の影響を大きく受ける  
生産性向上等でコスト低減  
米国子会社で荒天の影響等により操業度が低下
- 金属化合物事業  
出荷数量は増加  
品種構成の影響及び各種改善効果により損益改善

# 営業利益増減要因分析(2016-2017)

営業利益前年対比 -664百万円



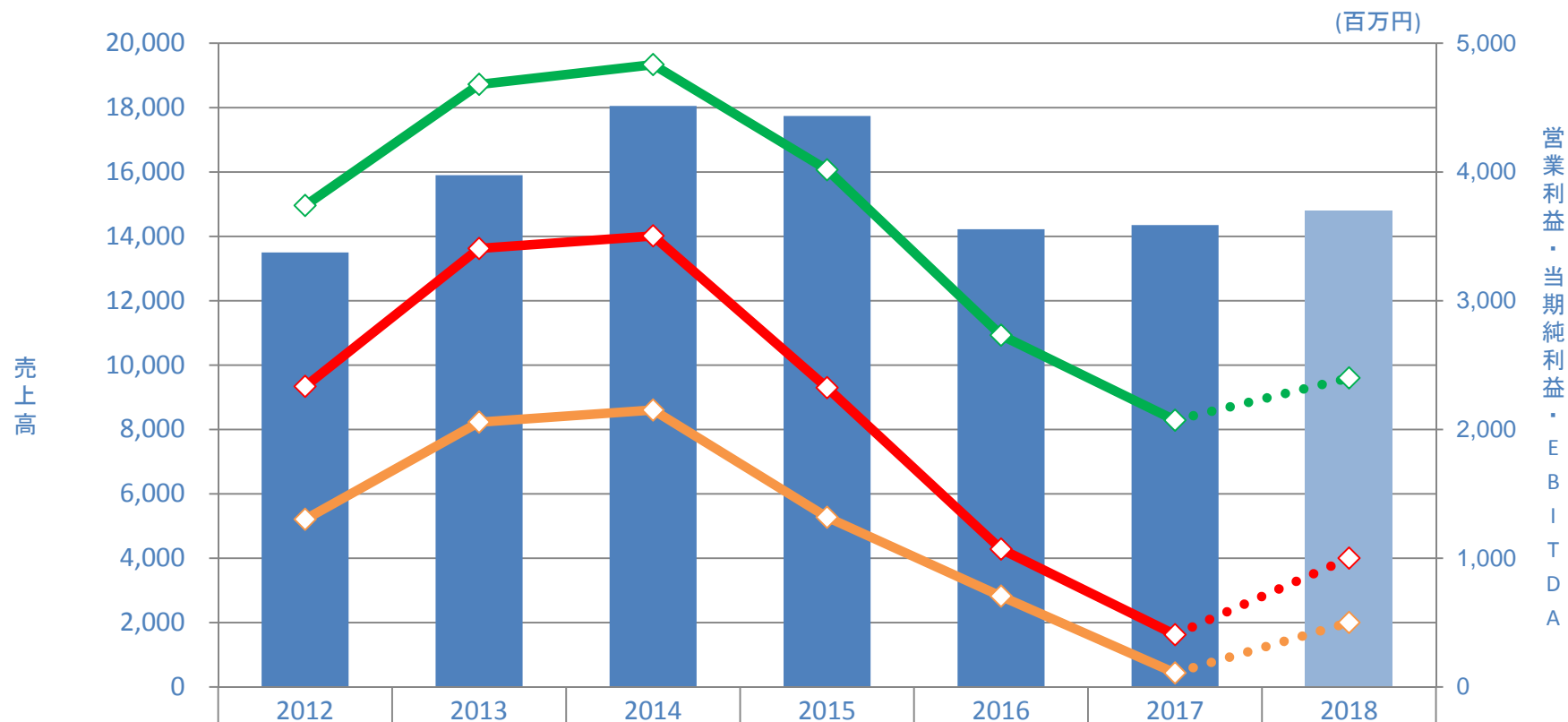
## 業績のポイント(2017-2018予想)

(百万円)

	2017	2018	増減	増減%
売上高	14,348	14,800	451	3.1%
営業利益	406	1,000	593	145.7%
当期純利益	109	500	390	354.8%

- 各事業とも需要は堅調
- ヨウ素の国際市況は当面は回復基調
- 販売活動の強化、製造プロセスの効率化等により体制を固めていくと共に、将来を見据えた商品開発を行っていく

# 業績推移



	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
■ 売上高	13,498	15,902	18,052	17,738	14,219	14,348	14,800
◆ 営業利益	2,334	3,406	3,503	2,324	1,071	406	1,000
◆ 当期純利益	1,302	2,057	2,151	1,318	705	109	500
◆ EBITDA	3,739	4,680	4,834	4,017	2,732	2,072	2,400
減価償却費	1,405	1,274	1,331	1,693	1,661	1,666	1,400
設備投資	1,829	2,717	2,230	1,774	1,267	1,028	2,000
円/ドルレート	79.8	97.6	105.8	121.1	108.8	112.2	110.0

## 会社を取り巻く事業環境と課題①

事業環境は日々変化していきませんが、いかなる状況であろうとも、事業を推進し、且つ発展させることが出来るよう、体制をより盤石なものにすることが求められます。

具体的には、製造プロセス技術の向上、お客様視点の商品の創出、お客様から信頼される安定した供給力の確保、等々が必要です。

製造プロセス技術の向上は、継続的に進めておりますが、これまでの知見を生かしつつ、新たな考え方を加えることで、業績に貢献できるよう努めて参ります。お客様視点の商品の創出も、お客様の思いを感じ取り、創意・工夫に努めることで、これまでとは違った特性や品質を持った商品を創り出して行きます。お客様から信頼される安定した供給力という意味では、必要な設備投資を着実にを行うことで、需要に応じて参ります。

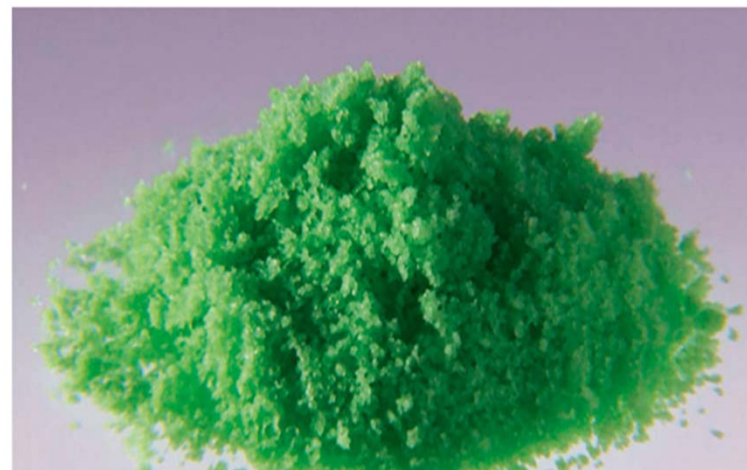
## 会社を取り巻く事業環境と課題②ヨウ素及び天然ガス事業

ヨウ素及び天然ガス事業においては、効率的な製造プロセスの追及に日々取り組み、新たな成果をあげて行きます。商品の創出についても、外部の力も活用しながら進めていく予定です。安定した供給力という意味では、かん水・ガスの井戸・配管についての投資を計画的に実行して参ります。



## 会社を取り巻く事業環境と課題③金属化合物事業

金属化合物事業においては、製造設備への投資により、規模を拡大していきます。





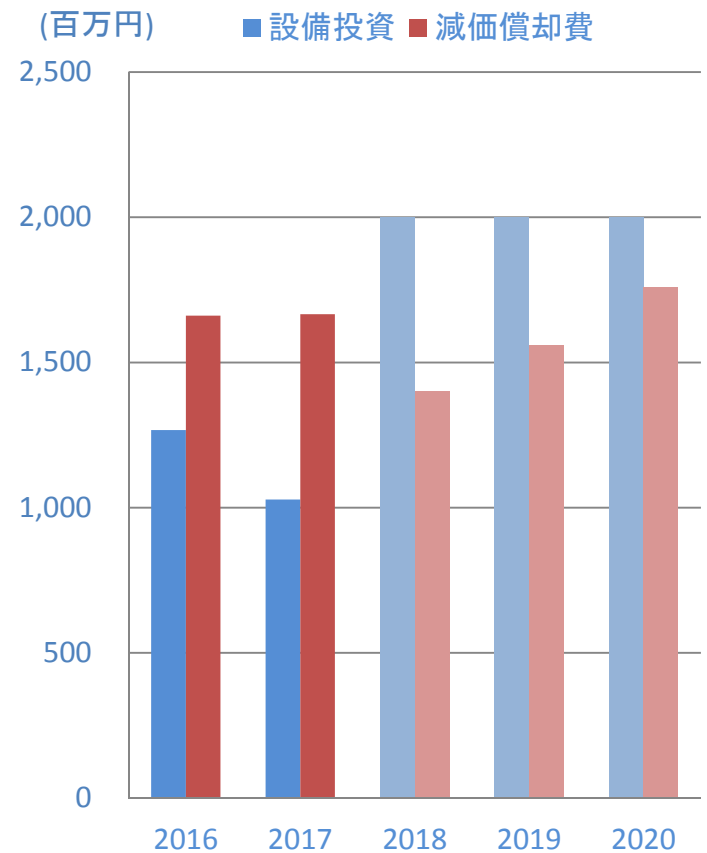
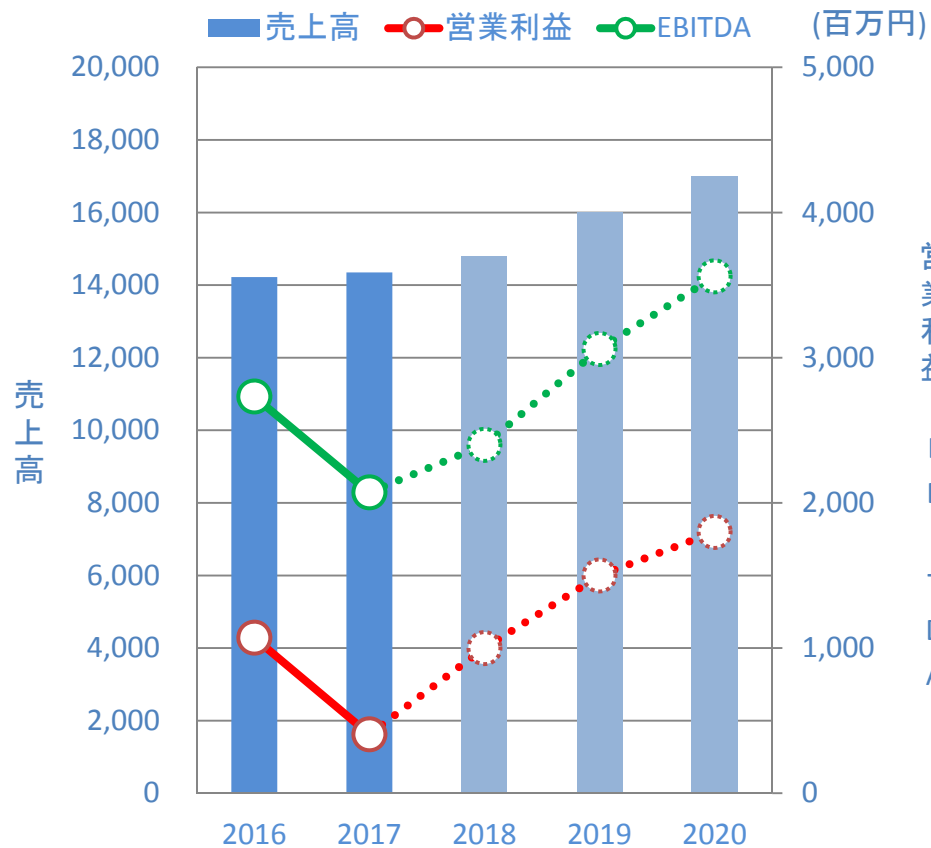
## 会社を取り巻く事業環境と課題④

ヨウ素及び天然ガス事業も金属化合物事業も成長が見込まれており、我々はしっかりとその伸びをとらえて、発展していこうと思います。

そうすることで、「技術力・品質においてNo.1」との評価を、確固たるものにする所存です。



# これからの3年間(2018年～2020年)の数値イメージ



売上数量の増加 ⇒ 売上増加、商品構成の変更、コスト削減により、利益拡大を目指して参ります。

## これからの3年間のテーマ

- ヨウ素及び天然ガス事業については、新規需要を見据えて、付加価値製品を開発して参ります。例えば、次世代の二次電池や太陽電池には多くのヨウ素化合物が求められますが、これらのための新規製品の開発を、外部の研究施設、社内の試験・試作設備等を使って実施して行きます。また、生産の基盤となるかん水・ガスの井戸の掘削や配管の整備などを、計画的に進めて、需要の伸びに沿った施策を着実に打って参ります。
- 金属化合物事業については、スマートフォンなどに多用されるセラミックコンデンサの材料など、電子用途の製品の需要増に応じて参ります。

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。